

2019年6月 研修説明会報告

2019年6月8日(土)17:00より、入院棟4階カンファレンスルームにおいて岡山大学産科婦人科学教室研修説明会を開催しました。初期研修医2年目9名、初期研修医1年目7名、6年生6名、5年生1名の計23名が参加してくれました。みなさん教室から発信する様々な情報に対して熱心に耳を傾けていました。



中村准教授の挨拶で始まり、まず教育医長から研修内容について説明を行いました。教室の歴史は古く、昨年開講130周年を迎えて“手術の岡大”として名が通っています。産婦人科専門医研修の必要症例数が改正されて執刀数が増えたことから、同門全体で手術指導が活発な岡大への入局は有利であることをお話ししました。それから岡大病院初期研修での産婦人科特別プログラムと先進コースの具体的な研修内容と、産婦人科を選択した後の後期研修プログラムについて説明しました。入局後、最初の6ヶ月間は岡山大学病院で研修し、産婦人科臨床の4領域の基礎を研修する間に学会発表、論文投稿ができるよう指導しています。その後2年間、性質の異なる二つの連携病院(3次施設と1・2次施設)で1年毎の研修を行い、最後の6ヶ月は再度、大学病院に集まり専門医試験に備える体制を整えています。同期の絆は大切であるため、大学と一緒に研修スタートすることを勧めていますが、結婚・家庭の事情等で関連病院からスタートする先生方に対しても、全分野を勉強し専門医取得できるよう配慮しています。

続けて教室から3名の先生方にロールモデルとして、自身のこれまでのキャリアを振り返ってもらいました。大学院生となり専門分野での臨床・研究に専念している先生、今年産婦人科専門医試験を控えて家庭生活と仕事の充実を成し遂げている先生、そして周産期を専門にしつつ国内留学でNICU研修の経験を持つ先生、それぞれが多彩な経歴に基づいて熱弁をふるって下さいました。参加者からも、幅広い選択肢をもった医局と感じたという声が聞かれました。増山教授の締め言葉で説明会は終了しました。



その後の懇親会では医局員も大勢集まり、終始和やかな雰囲気では盛況でした。学生・研修医のみなさんは、更に色々な立場の先生達と話ができて、実り多い1日になったのではないのでしょうか。医局員もこれほど多くの産婦人科志望者が来てくれたことに驚くとともに、感謝の思いで充実した時間を過ごすことができました。2020年度からは初期臨床研修に産婦人科が必修科目として復活するなど改革されていく中で、医局としても教育の役割は大きくなっていると感じます。この会で出会えたみなさんと一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

2018年11月20日 教育医長 衛藤 英理子